

オキカ、NバスでもOK

現金使わず感染防止

南城市(瑞慶覧長敏市長)と沖縄ICカード(那覇市、仲吉良次社長)は4日、南城市内を走るコミュニティバス「Nバス」で交通系ICカード「オキカ」を導入すると発表した。20日から利用を開始する。Nバスにキャッシュレス決済を導入することで、新型コロナウイルス感染症の予防や住民の利便性向上を図る。

南城、20日から

Nバスは市外からの幹線バスと地域を結ぶ支線バスの位置付けで、2019年10月に運行を始めた。オキカを発行する沖縄ICカードは、今年2月に市のキャッシュレス決済業務を受託し、バスの運賃箱近くに専用端末を設置している。

現金や回数券を介したコロナ感染を防止する効果とともに、幹線バスでもオキカが運用されていることから、乗り継ぎなどの利便性向上も図られる。

利用開始に伴い、地域限定デザイン「オキカ」も価格千円で販売する。南城市民限定で、市役所内沖縄バス出張所などを窓口から申し込み込むことができる。購入者の中から抽選で70人に、合計10万オキカポイントが当たるプレゼントも実施予定。

4日に南城市役所で開いた会見で仲吉社長は「コロナと共存する上で、キャッシュレスは有効な手段だ。オキカを通して地域の利便性向上に協力していく」と導入の意義を語った。



南城市の「Nバス」で20日から運用が始まる交通系ICカード「オキカ」。運賃箱に設けた専用端末にかざして決済する。4日、南城市役所